

平成28年度行政事業レビューシート ( 内閣府 )

<b>事業名</b>	青年国際交流経費			<b>担当部局庁</b>	政策統括官(共生社会政策担当) 青年国際交流担当室			<b>作成責任者</b>		
<b>事業開始年度</b>	昭和34年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	青年国際交流担当			参事官 藤澤 美穂		
<b>会計区分</b>	一般会計									
<b>根拠法令(具体的な条項も記載)</b>	内閣府設置法 第4条第3項二十七 青少年の健全な育成に関する関係行政機関の事務の連絡調整及びこれに伴い必要となる当該事務の実施の推進に関すること				<b>関係する計画、通知等</b>	「子ども・若者ビジョン」(平成22年7月23日 子ども・若者育成支援推進本部決定) 「子供・若者育成支援推進大綱」(平成28年2月9日 子ども・若者育成支援推進本部決定)				
<b>主要政策・施策</b>	子ども・若者育成支援				<b>主要経費</b>	その他の事項経費				
<b>事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>	①青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神やリーダーシップを持った青年を育成する。 ②国境を越えた青年相互の友好と理解を促進し、長期にわたる緊密な人的つながりを形成する。 ③上記②に加え、国家間の友好・親善を推進する重要な事業として実施することにより、我が国の外交及び国際交流の基盤形成に資する。									
<b>事業概要(5行程度以内。別添可)</b>	・航空機による派遣・招へい事業及び船による多国籍間交流事業を実施。 ・わが国及び諸外国から選抜された参加青年が、世界的な共通課題についての研究・討議、自国文化の紹介などの各種交流活動、産業・文化・教育施設等の視察・意見交換、船内での共同生活、訪問国でのホームステイなどを行う。 ・参加青年は、各国の代表者として、皇太子殿下の御接見などを賜ったり、各国の元首級等を表敬訪問。 ・これまでに、日本青年約16,000人、外国青年約19,000人が事業に参加。日本を含む世界50か国以上で事後活動組織が設立され、世界的なネットワークを発展させるとともに、様々な社会貢献活動を行っている。									
<b>実施方法</b>	直接実施、委託・請負									
<b>予算額・執行額(単位:百万円)</b>			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求			
	予算の状況	当初予算	1,052	1,174	1,351	1,412				
		補正予算	-	-	-	-				
		前年度から繰越し	-	-	-	-				
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-				
		予備費等	-	-	-	-				
	計		1,052	1,174	1,351	1,412	0			
	執行額		1,077	1,200	1,347					
執行率(%)		102%	102%	100%						
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 30 年度	
	青年国際交流事業を通じて、参加青年本人と参加国の人々と相互理解と友好が深まったと思う者の割合を90%以上とする。	成果実績	%		90	87	91	-	-	
		目標値	%		90	90	90	-	90	
		達成度	%		100	96.7	101.1	-	-	
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 30 年度	
	青年国際交流事業について、事業前後におけるリーダーシップを発揮する上で必要とされる能力の向上度合いを6段階評価で0.6ポイント以上とする。	成果実績	ポイント		-	-	0.5	-	-	
		目標値	ポイント		-	-	0.6	-	0.6	
		達成度	%		-	-	83.3	-	-	
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 30 年度	
	青年国際交流事業について、事業から1年後の時点で、外国青年等と交流が続いている者の割合を75%とする。	成果実績	%		-	-	100	-	-	
		目標値	%		-	-	75	-	75	
		達成度	%		-	-	133.3	-	-	
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 30 年度	
	青年国際交流事業について、事業参加を通じて社会貢献活動に参加したいという意欲を持った者の割合を90%以上とする。	成果実績	%		-	-	89	-	-	
		目標値	%		-	-	90	-	90	
		達成度	%		-	-	98.9	-	-	
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載</b>								<input type="checkbox"/> チェック		

活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込
	国際青年育成交流事業、日本・中国青年親善交流事業、日本・韓国青年親善交流事業、グローバルリーダー人材育成事業、グローバルユースリーダー育成事業、次世代グローバルリーダー事業、「東南アジア青年の船」事業、青年社会活動コアリーダープログラム、地域課題対応人材育成事業において、日本青年と外国青年の交流を行っている。 ※日本参加青年	活動実績	人	257	283	292	-
		当初見込み	人	266	257	297	297
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込
	国際青年育成交流事業、日本・中国青年親善交流事業、日本・韓国青年親善交流事業、グローバルリーダー人材育成事業、グローバルユースリーダー育成事業、次世代グローバルリーダー事業、「東南アジア青年の船」事業、青年社会活動コアリーダープログラム、地域課題対応人材育成事業において、日本青年と外国青年の交流を行っている。 ※外国参加青年	活動実績	人	509	530	543	-
		当初見込み	人	521	513	563	560
単位当たりコスト	算出根拠		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込
	X=事業のための予算執行額/Y=事業参加人数・交流日数	単位当たりコスト	円	42,441	43,075	43,641	43,438
		計算式	X/Y	1,047,653.4 33 /24,685	1,156,052.1 62 /26,838	1,322,589.6 00 /30,306	1,381,205,000 /31,797
平成28-29年度予算内訳 (単位：百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由			
	諸謝金	489	-				
	職員旅費	15	-				
	青年海外派遣旅費	10	-				
	委員等旅費	2	-				
	外国人招へい旅費	129	-				
	庁費・青年の船運航費	767	-				
	計	1,412	0				

事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明	
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	グローバル人材の育成は、我が国の最重要課題の一つであり、社会のニーズを反映しているといえる。	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	「子ども・若者育成支援推進大綱」(平成28年2月9日 子ども・若者育成推進本部決定)においても、国際交流の機会を提供することとされており、また、国家間の友好・親善を推進する重要な事業であるため、地方自治体、民間等に委ねることができない。	
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	「子ども・若者育成支援推進大綱」(平成28年2月9日 子ども・若者育成推進本部決定)においても、若者の国際理解を促し、グローバル化に対応したリーダーシップ能力、異文化対応力を育成するとともに、日本人としてのアイデンティティの確立を図るため、国際交流の機会を提供することとされている。	
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	基本的に一般競争入札又は公募型随意契約により、競争性のある調達方式としている。その上で、複数の業者からの入札を促すため、要件の見直し等を行ってきたところ。平成27年度においては、平成26年度と比較して複数応札案件が増え、競争が行われる件数が増加した。今後とも、幅広い業者から入札参加があるよう、取組を続ける。	
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有		
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無		
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	日本参加青年の参加費については、応分の費用負担としているため、見直しを行い、近年は負担額を増加している。	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	毎年度事業内容の見直しを行うとともに、既参加青年を始めとするボランティアの支援等により、経費の削減に努めている。	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-		
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	事業に必要な費目・使途に限定している。	
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-			
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	経費削減、費用対効果等の多角的な視点から事業の効率化に取り組んでいるところ。		
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	成果実績は成果目標に対し、概ね達成している。	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	グローバル化に対応した青年層の育成と外交・国際交流の基盤形成に資する事業として、高く評価されている。	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	活動実績は概ね見込みに見合ったものとなっている。	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	事業に参加した青年が組織する日本及び世界40か国以上に設立された各国事後活動組織は、ネットワークを発展させるとともに、様々な社会貢献活動を行っている。	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	○	内閣府政策統括官(共生社会政策担当)内において、左記事業名のうち「平成26年度「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」に関する支援業務」(契約額72百万円)を共同で実施。 (主として「青年国際交流経費」の担当において実施。)	
	所管府省・部局名	事業番号		事業名
	内閣府政策統括官(共生社会政策担当)	0076		子ども若者育成支援推進経費
内閣府政策統括官(共生社会政策担当)	0079	障害者施策推進経費		
点検・改善結果	点検結果		<p>経費については、参加国数、事業日数の絞込みなどの事業内容の見直しや効率化を進め、可能な限りの縮減を図っている。</p> <p>とりわけ船を使用する事業については、平成24年度行政事業レビュー以降の御指摘を踏まえ、24～27年度に毎年度、外部有識者による検討会を開催し、事業の成果検証及び今後の事業のあり方について検討を行ってきたところ。例えば「平成26年度青年国際交流事業の効果測定・評価に関する調査・研究」報告書においては、以下のような指摘がなされ、事業目的に沿った一定の効果を確認することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 内閣府事業参加者は他の国際交流事業参加者に比べ、仕事や社会貢献活動においてリーダーシップを発揮する機会をより多く有している。</li> <li>- 船上研修経験者は、非経験者と比べ、事業への参加を通じてその後の人生やキャリアにより大きな影響を受け、人脈やネットワークもより広がったと考えている。</li> <li>- 船上研修では、逃げ場のない空間で文化や価値観の衝突を経験し、それを乗り越えることで他では得られない絆や人間力が育まれるが、そのような学びを得るためには1か月を超える航海期間が必要と多くの参加者が考えている。</li> </ul> <p>他方、事業の目的に沿った政策手法の不断の見直し、効率的な実施等の観点から、従来の類似の事業から事業内容の大幅な見直し、改善を図っていく必要がある。</p>	
	改善の方向性		<p>経費については、多角的な視点から、既に様々な見直し・改善を行ってきたところ(例えば、平成27年度においては、次世代グローバルリーダー事業の参加費を過去の同様の事業と比較して4割引上げ)であるが、引き続き、適切な自己負担の在り方の検討、レセプション等行事の効率化、外国寄港時の当地活動費用の節減に向けた外国政府への協力依頼、民間企業への協力依頼等による経費削減の取組を進める。</p> <p>事業内容については、事業目的を達成するために効果的なプログラムの実施のため、有識者による検討会における指摘を踏まえ、PDCAサイクルによる不断の見直し・改善を行うこととしている。有識者による検討会における指摘を踏まえ、次世代グローバルリーダー事業において、参加青年の自主的な取組の時間を拡大。また、同事業において、より実践的なスキルアップの機会を提供するといった観点から視察先の選定を行ったり、最先端の企業経営に活かされているコーチングの理論を実践的に紹介できる講師の選定を行った。</p> <p>また、成果指標として、平成27年度事業より、リーダーシップ等の諸能力の向上度合の評価や、人的ネットワークの広がりに関する評価ができる成果指標を採用。</p>	

外部有識者の所見

行政事業レビュー推進チームの所見

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

備考

平成24年度行政事業レビュー公開プロセス(0131) 青年国際交流経費  
**【結果】廃止【取りまとめコメント】**全体プログラム、スキームの大幅な見直し、改善、効果測定が無い限り、廃止するべきである。様々な御意見があったことを踏まえつつ、十分検討し対応する。  
 ・「青年国際交流事業の効果測定・評価に関する検討会」(平成24年7月に3回開催) 中間報告 ([http://www8.cao.go.jp/youth/kouryu/kouka\\_kentoukai/index.html](http://www8.cao.go.jp/youth/kouryu/kouka_kentoukai/index.html))  
 ポイント:グローバル人材の育成が急務となる中、青年国際交流事業について必要な見直しを行いつつ、発展的に継続すべき。  
 ・「青年国際交流事業に関する検討会」(平成25年4月～同年6月に3回開催) 報告書 ([http://www8.cao.go.jp/youth/kouryu/kouryu\\_kentoukai/index.html](http://www8.cao.go.jp/youth/kouryu/kouryu_kentoukai/index.html))  
 ポイント:「世界青年の船」の優れた点を活かしながら、グローバル人材の育成のため、発展的見直しを行うべき。  
 ・「平成26年度青年国際交流事業の効果測定・評価に関する調査・研究」報告書 (<http://www8.cao.go.jp/youth/kouryu/research/h26/index.html>)  
 ポイント:  
 - 内閣府事業参加者は他の国際交流事業参加者に比べ、仕事や社会貢献活動においてリーダーシップを発揮する機会をより多く有している。  
 - 船上研修経験者は、非経験者と比べ、事業への参加を通じてその後の人生やキャリアにより大きな影響を受け、人脈やネットワークもより広がったと考えている。  
 - 船上研修では、逃げ場のない空間で文化や価値観の衝突を経験し、それを乗り越えることで他では得られない絆や人間力が育まれるが、そのような学びを得るためには1か月を超える航海期間が必要と多くの参加者が考えている。  
 ・平成26年度「秋のレビュー」の指摘事項に対する対応状況について  
**【指摘事項】**  
 成果指標として掲げられている「青年国際交流事業の各事業における参加青年アンケート調査において、事業参加者が青年本人の将来に役立つと思う者の割合」については、真に国益に資する事業か否かを測ることができる指標に置き換えた上で、改めて事業の効果を検証し、自己負担の在り方を含む事業の見直しにつなげていくべきである。特に、来年度予算として要望のある「次世代グローバルリーダー事業」については、これまでの指摘等を踏まえ、①自己負担の在り方、②適切な効果の測定手法の設定及びその検証、③経費削減を通じた効率化等について十分な検討を尽くすべきである。  
**【対応状況】**  
 青年国際交流事業の効果検証に関する検討会 ([http://www8.cao.go.jp/youth/kouryu/kouryu\\_kenshou/pdf/houkokusho.pdf](http://www8.cao.go.jp/youth/kouryu/kouryu_kenshou/pdf/houkokusho.pdf))において、今後の効果測定の方向性について、以下の指摘がなされた。①事業中～終了直後/事業から1年後/中長期のフォローアップの計3回に分けて、事業目的に沿って実施する、②参加青年の成長については、次世代グローバルリーダーに必要な能力に絞って評価を行う。これらを踏まえ、成果指標を設定したほか、事業参加者の一年後のフォローアップ調査を行い、有識者による検討会においても議論を行っている。引き続き、効果の検証を進めながら、事業の不断の見直し・改善を行う。  
 自己負担額について、平成27年度事業から、これまでの同様の事業に比べ、約4割の引上げを実施。今後も引き続き、効果の検証を図りながら、自己負担の在り方について不断の見直し・改善を行う。  
 また、事業日程の効率化、青年主体の交流促進という趣旨を踏まえたレセプション等行事の効率化、外国寄港時の当地活動費用の節減に向けた外国政府への協力依頼、民間企業・団体に対する協力依頼(必要な物品等の提供、事業期間中の講義への協力及び広報への協力依頼等)等を行い、事業の効率化及び経費縮減のため不断の見直し・改善を行う。

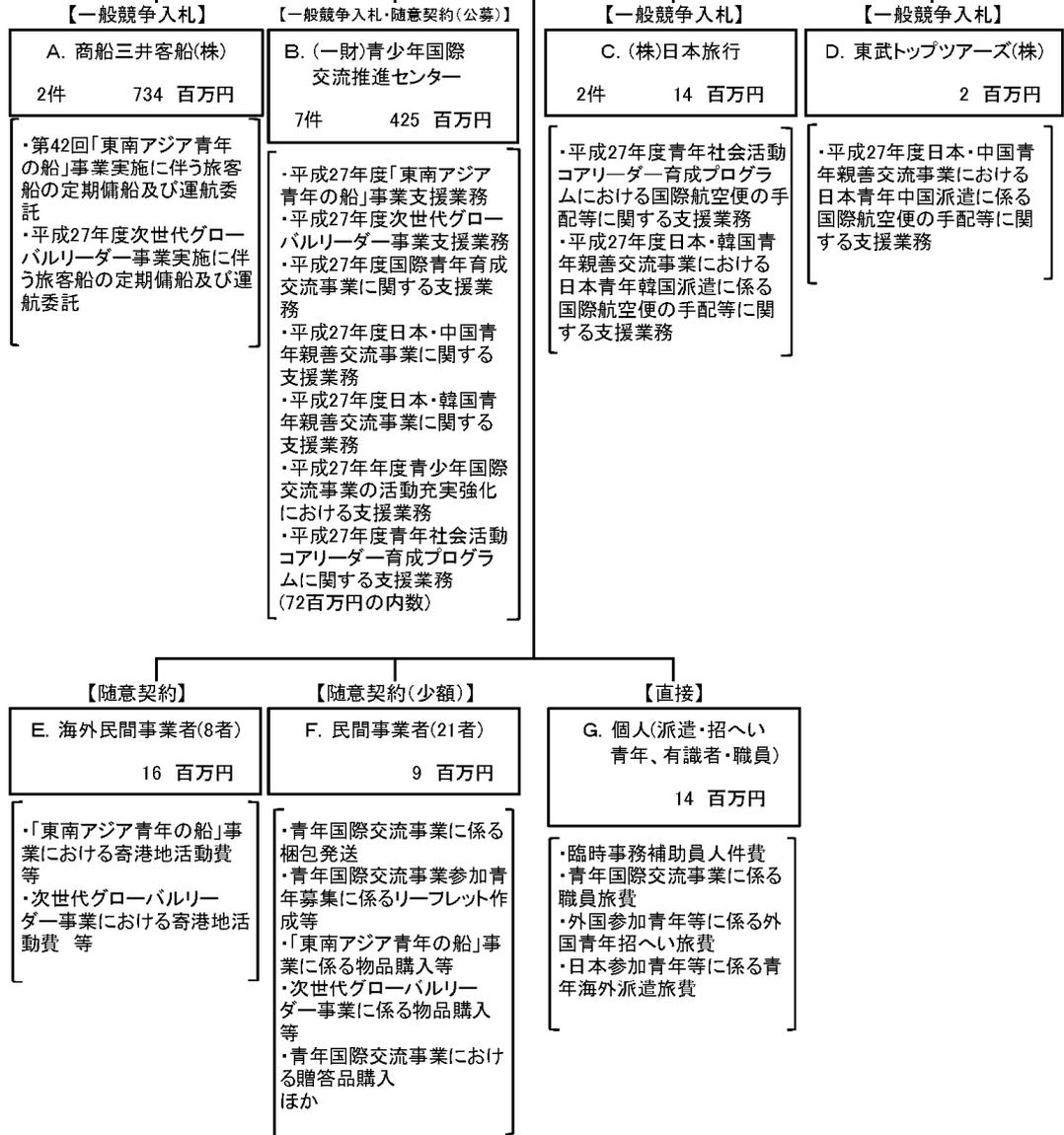
関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	127	平成23年度	134	平成24年度	131	
平成25年度	92	平成26年度	88	平成27年度	95	

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

内閣府政策統括官  
(共生社会政策担当)  
1,347 百万円

【日本と諸外国の青年の交流により、相互理解と友好を促進し、次代を担うにふさわしい国際性を備えた健全な青年を育成することを促進】



資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位: 百万円)

A.商船三井客船(株)			B.(一財)青少年国際交流推進センター		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
備船料		505	人件費	担当者の人件費	106
運航経費	港費、燃料費、運航消耗品、供食費等	129	旅費	担当者等の旅費	136
運航委託手数料		45	会議費	レセプション、飲料、弁当、茶菓等	38
消費税		54	諸謝金	講師、通訳、実行委員等への謝金	53
			借料	会場、バス、トラック、コピー機等	54
			その他	一般管理費	42
			雑役務費	文具、保険料、入場料、謝礼品、工芸材料費等	34
			印刷製本費	資料印刷費	16
計		733	計		479
C.(株)日本旅行			D.東武トップツアーズ(株)		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
旅費	参加青年等	14	旅費	参加青年等	2
計		14	計		2
E.M.H.T.(INDIA)TORUS&TRAVELS			F.(株)あまの創健		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
借料	インド 寄港地活動に要するハイヤー及びバス借上げ料	3	雑役務費	医薬品類の購入	2
計		3	計		2
G.職員A			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
賃金	人件費	4			
計		4	計		0

費目・使途  
 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A.商船三井客船(株)

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	商船三井客船(株)	2010401046878	平成27年度「東南アジア青年の船」事業(第42回)の実施に伴う旅客船の定期備船、運航委託	421	一般競争入札	1	-	
2	商船三井客船(株)	2010401046878	平成27年度次世代グローバルリーダー事業「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」の実施に伴う旅客船の定期備船、運航委託	313	一般競争入札	1	-	

B.(一財)青少年国際交流推進センター

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	(一財)青少年国際交流推進センター	2010005002856	平成27年度「東南アジア青年の船」事業支援業務	140	一般競争入札	1	-	
2	(一財)青少年国際交流推進センター	2010005002856	平成27年度次世代グローバルリーダー事業「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」支援事業	108	一般競争入札	1	-	
3	(一財)青少年国際交流推進センター	2010005002856	平成27年度国際青年育成交流事業に関する支援業務	82	一般競争入札	2	-	
4	(一財)青少年国際交流推進センター	2010005002856	平成27年度日本・韓国青年親善交流事業に関する支援業務	29	一般競争入札	1	-	
5	(一財)青少年国際交流推進センター	2010005002856	平成27年度青少年国際交流事業の活動充実強化に関する支援業務	25	随意契約 (公募)	1	-	
6	(一財)青少年国際交流推進センター	2010005002856	平成27年度日本・中国青年親善交流事業に関する支援業務	24	一般競争入札	2	-	
7	(一財)青少年国際交流推進センター	2010005002856	平成27年度青年社会活動コアリーダー育成プログラムに関する支援業務(72百万円の内数)	18	随意契約 (公募)	1	-	

C.(株)日本旅行

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	(株)日本旅行	1010401023408	平成27年度青年社会活動コアリーダー育成プログラムにおける国際航空便の手配等に関する支援業務	12	一般競争入札	2	-	
2	(株)日本旅行	1010401023408	平成27年度日本・韓国青年親善交流事業における日本青年韓国派遣に係る国際航空便の手配等に関する支援業務	2	一般競争入札	2	-	

D.東武トップツアーズ(株)

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	東武トップツアーズ(株)	4013201004021	平成27年度日本・中国青年親善交流事業における日本青年中国派遣に係る国際航空便の手配等に関する支援業務	2	一般競争入札	3	-	

## E.海外民間事業者

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	M.H.T.(INDIA)TORUS &TRAVELS	-	インド 寄港地活動に要する ハイヤー及びバス借上げ料	3	随意契約 (その他)	1	-	
2	KARUSAN TRAVELS (PVT) LIMITED	-	スリランカ 寄港地活動に 要するハイヤー及びバス借 上げ料	3	随意契約 (その他)	1	-	
3	TOMATECO TOURIST Jimmy Do	-	ベトナム 寄港地活動に要 するハイヤー及びバス借上 げ料	3	随意契約 (その他)	1	-	
4	experience pilipinas CHERRY SARINA"CHI" M.BER NARDO	-	フィリピン 寄港地活動に要 するハイヤー及びバス借上 げ料	2	随意契約 (その他)	1	-	
5	Borneo Trails Rieko Tsubone	-	マレーシア 寄港地活動に 要するハイヤー及びバス借 上げ料	2	随意契約 (その他)	1	-	
6	TRAVELS&TOURS CO.,LTD.Ken Ogasawara	-	ミャンマー 寄港地活動に 要するハイヤー及びバス借 上げ料	2	随意契約 (その他)	1	-	
7	KENTOS SERVICES PTE LTD	-	シンガポール 寄港地活動 に要するハイヤー及びバス 借上げ料	0.2	随意契約 (少額)	1	-	
8	BLOOM-ING TOURS COMPANY LIMITED Jun MARUYAMA	-	ラオス 寄港地活動に要す るハイヤー及びバス借上げ 料	0.1	随意契約 (少額)	1	-	

## F.民間事業者

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	(株)あまの創健	6180001016022	医療・衛生品の購入等	2	随意契約 (少額)	1	-	
2	朝日梱包(株)	9010601040880	内閣府青年国際交流事業 広報資料の梱包発送等	1	随意契約 (少額)	1	-	
3	(株)セイフビジネスサ プライズ	2010401015610	消耗品類の購入等	1	随意契約 (少額)	1	-	
4	(有)創電社	4010502006218	無線機の修繕等	1	随意契約 (少額)	1	-	
5	シンソー印刷株式会 社	2011101036302	内閣府青年国際交流事業 通年ポスター等	0.9	随意契約 (少額)	1	-	
6	ヨシダ印刷(株)	7011801005147	内閣府青年国際交流事業 参加青年募集リーフレット 等	0.7	随意契約 (少額)	1	-	
7	富士ゼロックス(株)	3010401026805	平成27年度内閣府青年国 際交流事業における複写 機の賃貸借等	0.6	随意契約 (少額)	1	-	
8	(福)東京コロニー	6011205000217	平成27年度「東南アジア青 年の船」事業(第42回)「H andbook」等	0.5	随意契約 (少額)	1	-	
9	(株)長谷エシステム ズ	8010401037161	SSEAYP News NO. 3 8等	0.4	随意契約 (少額)	1	-	
10	(株)祐馬工芸	2010001105514	外国参加青年等に対する 贈与品の購入	0.4	随意契約 (少額)	1	-	

## G.個人

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	職員a	-	賃金	4	-	-	-	
2	職員b	-	出張旅費	0.5	-	-	-	
3	職員c	-	出張旅費	0.5	-	-	-	
4	職員d	-	出張旅費	0.4	-	-	-	
5	職員e	-	出張旅費	0.4	-	-	-	
6	職員f	-	出張旅費	0.4	-	-	-	
7	職員g	-	出張旅費	0.3	-	-	-	
8	職員h	-	出張旅費	0.3	-	-	-	
9	職員i	-	出張旅費	0.2	-	-	-	
10	職員j	-	出張旅費	0.2	-	-	-	
支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載							<input type="checkbox"/> チェック	